

第5回防災講演会の報告

(公社) 日本技術士会近畿本部 (登録) 防災研究会

開催日 : 平成27年10月13日(火) 19:00~20:00
開催場所 : 日本技術士会近畿本部会議室
参加者数 : 21名

1. はじめに

平成27年10月13日(火)午後7時より、近畿本部会議室において「第5回防災講演会」を開催しました。建設部門の技術士であり、前泉南市長の向井通彦氏を講師としてお迎えし、「まちぐるみで取り組む防災・減災」と題してご講演を頂きました。全国の自治体では地域防災計画の全面改訂を行うなど防災・減災の取組を行っているが、行政だけでは限界があり、幅広く市民全体、まち全体で取り組む必要があるとの観点から、泉南市の取り組みについて紹介をいただきました。市長時代の数々の取り組みと現在も技術士として具体的に関わられているご経験を交えてご講演をいただき、大いに参考となるものでした。



2. 講師略歴



1941年大阪市でお生まれになり、1961年から大阪市役所勤務で橋梁専門技術職として中之島に係る橋や天王寺バイパスなど多数の橋梁事業に関わられたのちに、1973年泉南市役所勤務となり、土木課長、事業部長、市長公室長、助役を経て、1994年から2014年まで、泉南市長を5期務められました。この間、泉州市長会会長、大阪府市長会会長、近畿市長会会長、全国市長会副会長を歴任されております。

現在は、日本技術士会会員、NPO都市災害に備える技術者の会顧問、泉南市防災技術者の会副会長などの立場で、防災・減災に係る活動を続けられております。

3. 講演概要

3.1 東日本大震災への大阪府市長会及び泉南市の取り組み

講演の冒頭、東日本大震災において大阪府市長会や泉南市の取り組み状況について紹介いただきました。関西広域連合で大阪府は岩手県を支援するとして、発災当日の3月11日夜に消防職員が万博公園に集合し災害派遣の先陣として現地に入り、その後水道支援として泉南市も給水車と職員を派遣した。向井氏は市長会会長として、4月19日に岩手県に入り大槌町や陸前高田市に対する支援のニーズ調査を行い、それを基に大阪府内市町村職員派遣スキームを作った。ニーズの高かった看護師、保健師は、女性が多いことを考慮して1か月単位でローテーションして派遣するなど、支援者側の事情も考慮したものとした。また、修学旅行をあきらめていた岩手県内の中学生100名について、市町村や大阪府の負担を決めて費用をねん出し、大阪に招待した事例も紹介された。

3.2 本題「まちぐるみで取り組む防災・減災」

(1) 泉南市地域防災計画の改定など行政の取り組み

地域防災計画は、従来の風水害中心から地震災害対策編への充実を図った。その際委員会形式で検討を行い、委員は行政、関電、NTT、自治会など各種団体の代表者に入ってもらったが男性が主体であったため、婦人会会長、女性消防団会長に参画してもらい、女性の視点も踏まえての改定とした。

ハード面では、大阪府の3防災拠点のうち、泉南市が横山ノック知事時代にいち早く協力したことから、南部防災拠点が最も早く整備され、平時は体育館としても活用している。

職員災害初動マニュアルも府内で最速に作り、避難所近くの職員に鍵を預け、迅速な避難所開設ができるような体制とした。

こどもの権利基本条例をいち早く策定し、防災も位置づけ、幼児から防災意識を醸成するとともに、こどもの利益を優先する仕組みを構築している。

(2) 市民団体の取り組み

向井氏が中心となり「泉南市防災技術士の会」が設立され、現市長も顧問で入っており、市と二人三脚で、防災シンポジウムなど啓発活動を行っている。特に、子どもたちへの啓発を意識して、「小学生を対象とした防災出前講座」「女性消防団と連携した幼児向けの紙芝居」「子ども向けの防災クイズ」などを実施している。このことが、個々の自主防災組織の設立から、自主防災組織連絡協議会の設立へとつながり、各種訓練も実施されている。

イオンモール泉南とは、大阪府も入り防災協定を締結し、一次避難所にも位置づけ、イオンの全面的な協力のもと各種団体が協力して、防災訓練や防災フェアなどを開催している。

このような各段階での連携の広がり、「泉南市防災まちづくり協議会」の結成につながり、「まちぐるみで取り組む防災・減災」活動につながっている。



最後に、活動の継続の必要性を強調され、「ロングスパンで継続していくことが難しい面もある。そのためにも、子ども向けに対応していくことが必要。まちぐるみで防災・減災に努めるということで、普段は忘れがちになることを繰り返し行うことが大切である。」として講演を閉められました。

4. 質疑応答

活発な質疑応答が行われましたが、向井氏のお答えとして要旨を次のとおりまとめました。

- 防災まちづくり協議会は、防災技術士の会が府補助金で市と防災フェアを実施したことが契機となった。市危機管理課が会の窓口や防災技術者の会の事務局も行っている。防災は横断的な対応が必要だが、トップダウンにより柔軟な対応を市や各組織に求めることも必要。
- 種々団体は、うまく連携できないところもあるが、協議会を通じて連携。個々の活動レベルの差はあるが、自主性が大切。
- 防災計画では住民や事業者も含めている。地域との連携をさらに広げていくことが必要。
- 市の子ども権利条例は、子ども会議を位置づけるなど実践型でスパイラルアップを目指す。

5. おわりに

講演会後交流会が開催され、向井氏から11月にCD（「和歌山の恋」向井氏作詞作曲、「紀州路ものがたり」橋架太郎（向井氏）デュエット曲）を発売することがお披露目されるなど、参加者相互の交流を深めました。（文責 藪内生死）